

4. 科研費トピックス

科研費の「基金化」が実現、研究の進展に合わせた研究費の使用が可能に

日本の会計制度は単年度主義に基づいているため、科研費についても、研究者の研究計画のうち会計年度ごとに必要な補助金の助成を行っています。

しかし、学術研究は、柔軟な発想や手法で取り組むことにより、先駆的で独創的な成果が得られるものであるため、必ずしも当初の計画どおりに遂行されるものではありません。

このため、研究者からは年度の制約を受けず、研究の進展に合わせて研究費を使用することができる制度の実現が切望されていました。

これらの要望を実現するためには、複数年にわたる研究費を基金として措置することが必要であったため、日本学術振興会に「学術研究助成基金」を設ける旨の法律が国会で成立し、4月28日に施行されました。

「基金化」した新たな科研費制度は、まず「基盤研究(C)」、「挑戦的萌芽研究」、「若手研究(B)」の新規採択課題(新規採択の約8割、約2万件)を対象としてスタートしました。

科研費の「基金化」によって、

- ① 研究の進展に合わせた研究費の前倒し使用
- ② 事前の繰越手続を必要としない、次年度における研究費の使用
- ③ 年度をまたぐ物品調達

などが可能となり、研究費をこれまでより柔軟かつ効果的に使用できるとともに研究者は研究に専念できるようになるため、研究活動が活性化されるなど大きな効果が上がることが期待されます。

研究助成改善のイメージ

	1年目	2年目	3年目	4年目
予定額	100万円	100万円	100万円	100万円
実際に必要となった研究費	130万円	70万円	80万円	120万円

30万円
前倒し請求が可能

20万円
繰越しに関する手続が不要

平成23年度科学研究費補助金の交付内定(4月1日)について

科学研究費補助金制度では、研究者の方々ができるだけ早く研究に着手していただけるように、採択課題の交付内定通知の早期化に努めています。

平成23年度採択分については、審査中の一部の研究種目及び基金化の制度改正を行う研究種目の新規採択分を除き、年度当初の4月1日に交付内定を通知しました。

文部科学省交付分

「特定領域研究」、「新学術領域研究(※)」、「特別研究促進費(継続)」、「研究成果公開促進費(研究成果公開発表)」

(※) 研究領域提案型の新規の研究領域分を除く。

日本学術振興会交付分

「特別推進研究(継続)」、「基盤研究(S)(継続)」、「基盤研究(A・B)」、「基盤研究(C)(継続)」、「挑戦的萌芽研究(継続)」、「若手研究(S)(継続)」、「若手研究(A)」、「若手研究(B)(継続)」、「研究活動スタート支援(継続)」、「奨励研究」、「研究成果公開促進費(学術定期刊行物、学術図書、データベース)」、「学術創成研究費(継続)」

小・中・高校生のための
プログラム



KAKENHI

「ひらめき☆ときめきサイエンス」とは、大学で行っている最先端の科研費の研究成果について、小中高校生の皆さんが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらうプログラムです。

平成22年度「よく工夫されたプログラム」の事例紹介



『北大農場でベリーの品種改良に挑戦しよう!』

星野 洋一郎

北海道大学・北方生物圏フィールド科学センター・助教

ラズベリーとブラックベリーの交配を行い、オリジナルの品種を育てた!



『水の科学—水の不思議な性質を調べよう—』

斎藤 紘一

尚絅学院大学・総合人間科学部・教授

身近にあるプラスチック製品などを使った実験を通して、水の不思議を学んだ!



『～トラがたばこをすっていたころ～ 韓国の昔話の世界へようこそ——韓国文化体験講座』

大竹 聖美

東京純心女子大学・こども文化学科・准教授

「トラ」が出てくる韓国の昔話を聞いたり、ハングル工作をしたり、チマ・チョゴリを着たりして、韓国文化を体験した!

平成23年度も、夏休みを中心に、多くの体験プログラムを実施します。

「ひらめき☆ときめきサイエンス」の詳細は、<http://www.jsps.go.jp/hirameki/index.html> をご覧ください。